

# 秋保 いってみっぺ

二口越え最上街道を長袋町から、古の官道である笹谷街道(457号線経由)へ、楯山を回り込む形で竹の内・石神を経る道と、館・国久を経る道があり、共に本砂金との村境で合流し川崎へ向かう道です。

この道路沿いにも多くの石塔がありますが、特に道沿いの組中で建てられた「南無阿弥陀仏」の六字名号碑が目につきます。南無阿弥陀仏と唱えることにより、いかなる人でも死後の極楽浄土行きが約束されるという阿弥陀信仰に基づくもので、亡くなった人の極楽往生を祈り、自らの死後の安楽を願って建てられたものです。

また、この道ばたには秋保では数少ない「水神」碑と、他にはない養蚕の神を祀った石塔があります。

## 道ばたの神々Ⅱ 館・竹の内・石神・国久編

館山原の六面幢(通称六角地蔵)、天文元年(1736年)に建てられたこの石塔は、元々楯山麓の旧道沿い戸崎(館山原)入口に在ったものが、道路整備に伴い現在の場所に移されたようです。  
人間を含めた多くの生き物(仏教では衆生と言う)は、六つの世界で輪廻(生死)を繰り返すと考えられていました。これを六道といい、この六道(六つの世界)には、天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道があり、このそれぞれの世界での苦しみから救済する六体の地蔵菩薩が、日光地蔵・除蓋障地蔵・持地地蔵・宝印地蔵・宝珠地蔵・壇陀地蔵で(地蔵菩薩については諸説あります)これを六面に彫り込んだ非常に効率の良いスタイルの地蔵が、六面幢です。

いってみっぺ  
秋保

道ばたの神々Ⅱ  
館・竹の内・石神・国久編

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市  
連絡先：秋保総合支所総務課(022-399-2111)  
秋保市民センター(022-399-2316)

人々が素朴な信仰心を背景に、その願いを込めて建てた石塔や祠道ばたにある神々を巡り昔の人々の心に触れてみませんか。

訪れてみたい秋保  
二口街道ツアー 62

No.27

掲載されている情報は、令和2年3月現在のものです。

宝印地蔵

宝珠地蔵

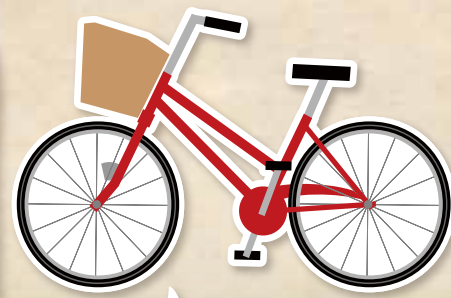
壇陀地蔵

日光地蔵

除蓋障地蔵

持地地蔵

# 道ばたの神々Ⅱ (館・竹ノ内・石神・国久編)



自転車で  
の周遊が  
おすすめ!

**1 瀬沢新道の三界萬霊碑**  
三界萬霊の三界とは仏教の言葉で、簡単にいうと過去・現在・未来のこと。この世の生きとし生けるもの全ての霊を供養するため建立されたものです。そこでこの碑は萬霊供養の意味から、人々の往来の多い道ばたや寺の入口、あるいは墓地に建てられたようです。かつてはこの辺りが境野から瀬沢を渡り長袋の町に出る道だったと考えられ、文化元年(1804年)に長袋の町の人々が建立した「三界萬霊」碑と嘉永五年の「金剛山」碑、安政・嘉永年号のある「馬頭観世音」が三基あります。



**2 館山原の六面幢**  
元文元年(1736年)に建てられた六角柱の石塔で、六つの面には六道名(天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道)とそれぞれ迷える者を救済する線彫りの六地藏(地藏に付いては諸説ある)の「日光地藏」・「除蓋障(じよがいしよう)地藏」・「持地(じち)地藏」・「宝印(ほういん)地藏」・「宝珠(ほうじゆ)地藏」・「壇陀(だんだ)地藏」が描かれています。建立当初は橋山裾野の旧道で戸崎(館山原)の入口にあったものと思われる。

**3 秋保家御廟前の六字名号碑**  
正徳四年(1714年)にこのあたりの戸崎の人が建てた供養碑で、かつてはこの石塔のあたりが笹谷街道への道だったものと思われる。



**4 国久道ばたの六字名号碑**  
建立の時期は不明ですが、南無阿彌陀仏の名号の左右に信士の位号の戒名が刻まれていることから、供養塔として街道筋に建てたものと思えます。



**10 竹ノ内養蠶祖神碑**  
竹の内橋を渡り本砂金へ向かった国道457号の東側の畑の中に文政四年の金毘羅大権現、嘉永三年の小牛田山神と馬頭観世音、昭和二年建立の養蠶祖神碑があります。養蚕に関わる神名を刻んだ石塔はことと汎端にあります。昭和二年は金融恐慌が始まった年で記録的な寒波が襲った年でもあることから、養蚕の繁盛を願って建立されたものと思われる。



周遊約9.0km  
徒歩 ← 周遊約2時間  
自転車 ← 周遊約1時間

**5 国久の石塔群**  
柴田郡境の古道脇の石塔群で、下部は埋没して確認できませんが、「象頭山・湯殿山・蔵王権現・小牛田山神・古峯神社」を祀った石塔です。ここから数十メートル行くと柴田郡の内野集落となり、かつての街道らしく大小の石塔が多数あります。



**6 畑(本砂金村境)の石塔群**  
古道の村境らしく、江戸時代中頃から明治、昭和の初めにかけて建立された馬頭観世音3基・庚申供養・鹽竈大明神・金毘羅大権現・金華山・天照皇大神金比羅山秋葉山・天照皇大神宮の九基の石塔があります。ここで確認できる一番古い年号のものは宝暦三年の「庚申供養」塔で、幅が90cm・高さが120cmと存在感のある石塔です。また、文化四年の鹽竈大明神碑は「當町中下組」と刻まれているので、長袋町の下組の人々が何等かの理由でこの場所に建立したものと思われる。



**8 沢畑の蠶姫光神碑**  
国道457号から石本・西仙台変電所への分かれの道ばたに、明治から大正時代に建立された、古峯神社・月山羽黒山湯殿山・金華山碑があり、秋保地区では2基しか見られない養蚕に関する石塔です。蠶姫光神(昭和二年建立)と嘉永二年の馬頭観世音が並び、集落の人々が節々に供えた幣束があります。蠶姫光神碑は、秋保地区で明治の中頃から盛んだった製糸業が、生糸の価格暴落で減少していた生産量の拡大と停止していた絹織物の生産の再興を祈念して建立されたもので、行者と世話人、発起人、製糸業や機械に関わったと思われる女性を含む数十人の名前が刻まれています。



**7 菅刈道ばたの六字名号碑**  
石塔自体は確認できないが、竹の内黒松の六字名号碑と同じく享保三年に建立された石塔で、施主は「名取郡北方秋保庄長袋村国久組一宇」と刻まれています。享保三年は御蔭参りの年で、徳川吉宗が將軍になって間もない頃です。



**9 竹ノ内黒松の石塔群**  
川崎方面から仙台城下へ上る際、ここ竹の内黒松から戸崎をへて境野・板風峠を越えていたことから、ここには天照皇大神・湯殿山大権現・南無阿彌陀仏・蔵王大権現・二十三夜塔・水神・馬頭観世音・小牛田山神・金毘羅大権現と刻まれた9基の石塔があります。農業用水の水源地によく見られる「水神」は秋保でこれを含め4基だけ、貴重な石塔の一つです。また、享保三年(1718年)の「六字名号碑(南無阿彌陀仏)」の施主は「名取郡北方秋保庄長袋村竹之内組・男女一宇」と刻まれており、この竹の内地区のご先祖たちが建立したものです。

